

13 文献総合目録

(1) 平成29年度に発表等を行った文献数一覧

(単位：編)

学 会 誌		公刊図書	機関誌	計
論文・報告	発表・講演要旨			
35	150	2	72	259

(2) 平成29年度に発表等を行った文献の目録

01 育種一般及び育種計画

011 総説

1. 星比呂志、中長期計画1年目の優良品種の開発等の成果、林木育種情報、25:1、2017.07.
2. 倉本哲嗣、平成28年度に開発した新しい品種について、九州育種場だより、35:2-3、2017.07.
3. 星比呂志、少花粉スギ品種と無花粉スギ品種の開発に取り組む、季刊森林総研、40:8-9、2018.02.
4. 高橋誠、平成29年度に開発した優良品種、林木育種情報、27:2-3、2018.03.
5. 大塚次郎・磯田圭哉、コウヨウザンの育苗、コウヨウザンの特性と増殖の手引き、2018.03.

012 育種計画

1. 坪村美代子・大平峰子・高島有哉・三嶋賢太郎・平尾知士・平岡裕一郎・加藤一隆・高橋誠・星比呂志・渡辺敦史(九州大学農学研究院)、新たな無花粉スギ品種「林育不稔1号」の開発と今後の無花粉スギ育種、森林遺伝子育種学会第6回大会講演要旨集、p23、2017.11.
2. 田村明・福田陽子・矢野慶介・織田春紀(元森林総研林木育種センター)・山田浩雄・高橋誠、カラマツ属における施設内採種園の実用化の可能性について、森林遺伝育種学会第6回大会講演要旨集、25、2017.11.
3. 平岡裕一郎・齋藤和人(電気通信大学)・松下通也・高橋誠・増田宏(電気通信大学)、点群データを用いた樹冠を含む樹木形状生成と形質値推定の試み、森林遺伝育種学会第6回大会講演要旨集、14、2017.11.
4. 三浦真弘・岩泉正和・玉城聡・磯田圭哉・久保田正裕、関西育種基本区における抵抗性アカマツ次世代化の取り組み、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、6:22、2017.11.
5. 高橋誠、無花粉スギの種苗生産拡大に向けた技術開発、林木育種情報、26:2、2018.01.
6. 平岡裕一郎・齋藤和人(電気通信大学)・松下通也・高橋誠・増田宏(電気通信大学)、点群データを用いたスギにおける地上部形質の定量評価、第129回日本森林学会大会講演要旨集、F2、2018.03.

02 遺伝、育種及び変異

021 選抜

1. 大平峰子・三嶋賢太郎・坪村美代子・平岡裕一郎・加藤一隆・高橋誠・星比呂志・平尾知士・栗田学・渡辺敦史(九州大学)、新たな無花粉スギ品種の開発と今後の品種改良を促進するDNAマーカーの開発、森林総合研究所平成29年度版研究成果選集、42-43、2017.07.
2. 井城泰一、平成28年度東北育種基本区における新品種の開発、東北の林木育種、215:3-4、2017.07.
3. 宮下久哉・山野邊太郎・高島有哉・千葉一美・加藤一隆、関東育種基本区におけるスギ第二世代精英樹候補木の選抜－関東67号における実行結果－、平成29年版林木育種センター年報、111-112、2017.08.
4. 花岡創・中田了五・矢野慶介・西岡直樹・田村明・今博計(北海道林業試験場)・石塚航(北海道林業試験場)・来田和人(北海道林業試験場)、北海道育種基本区におけるカラマツ第二世代精英樹候補木の選抜－平成28年度の実施結果－、林木育種センター平成29年版年報、pp.103-105、2017.08.
5. 久保田正裕・篠崎夕子・三浦真弘・岩泉正和・竹原正人・笹島芳信・林田修・河合貴之・柏木学、関西育種基本区におけるスギ第2世代精英樹候補木の選抜－西山大20号、西山大30号における実行結果－、平成29年版林木育種センター年報、113-116、2017.08.
6. 宮下久哉・平岡裕一郎・加藤一隆、関東育種基本区において開発した幹重量の大きいヒノキ

- 品種の選抜差、第7回関東森林学会大会講演要旨集、p. 21、2017. 10.
7. 武津英太郎・松永孝治・倉原雄二・栗田学・倉本哲嗣、間伐が次世代精英樹候補木の選抜に与える影響 -九州育種基本区における検討事例-、第73回九州森林学会大会研究発表要旨集、p40、2017. 10.
 8. 宮下久哉・平岡裕一郎・高島有哉・加藤一隆・幹重量の大きいヒノキ品種と選抜母集団との表現型値の比較、森林遺伝育種学会第5回大会要旨集、p. 23、2017. 11.
 9. 河合慶恵・久保田正裕・遠藤圭太・磯田圭哉、雄性不稔遺伝子をヘテロ保有するスギ個体の簡易な探索方法 - 自殖家系における雄性不稔個体の分離を利用した試行 -、森林総合研究所研究報告、16(4):265-266、2017. 12.
 10. 栗田学、林木の新しい品種の開発と普及にむけた取り組み、BIO九州-九州の農林水産業、食品産業を支援する産学官連携・先端技術情報誌-第221号、p33、2018. 01.
 11. 宮下久哉・高島有哉・平岡裕一郎・加藤一隆、関東育種基本区において開発した幹重量の大きいヒノキ品種の遺伝獲得量、関東森林研究、69(1):ページ未定、2018. 03.
 12. 花岡創、北海道における第2世代精英樹候補木の選抜、野幌の丘から、188:3、2018. 03.
 13. 那須仁弥・井城泰一・宮本尚子・山野邊太郎、アカマツ精英樹人工交配家系の44年生における成長形質の解析、第129回日本森林学会大会、P2-161、2018. 03.
 14. 武津英太郎・松永孝治・倉原雄二・栗田学・倉本哲嗣、間伐が次世代精英樹候補木の選抜に与える影響 -九州育種基本区における検討事例-、九州森林研究、71:ページ未定、2018. 03.

023 変異(系統分類、倍数体を含む)

1. 田村美帆(九州大学)・平尾知士・三嶋賢太郎・渡辺敦史(九州大学)・手島康介(九州大学)、スギ EST データベースへロングリードを適用した際の利点と問題点、NGS 現場の会 第五回研究会、p. 32、2017. 05.
2. NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)・MIKAMI Masafumi(三上雅史・横浜市大、農研機構)・ENDO Masaki 遠藤真咲・農研機構)・KONAGAYA Ken-ichi(小長谷賢一)・TANIGUCHI Toru(谷口亨)、Development of an efficient foreign gene expression system in *Cryptomeria japonica* D. Don (Sugi) (スギにおける効率的な外来遺伝子発現系の構築)、IUFRO Tree Biotechnology Conference book、p. 86、2017. 06.
3. 七里吉彦・三上雅史(横浜市大、農研機構)・大宮泰徳・二村典宏(元森林総研職員)・遠藤真咲(農研機構)・西口満・小長谷賢一・谷口亨、スギ(*Cryptomeria japonica* D. Don)におけるゲノム編集の最適化条件の探索、日本ゲノム編集学会第2回大会要旨集、p. 76、2017. 06.
4. 三嶋賢太郎、「爽春」の無花粉遺伝子を高い精度で判定できる DNA マーカーの開発、林木育種情報、25:4、2017. 07.
5. 七里吉彦・田部井豊(農研機構)、 γ -ヘキサクロロシクロヘキサン(γ -HCH)分解遺伝子を導入したカボチャ毛状根の作出、化学と生物、55(8):529-531、2017. 07.
6. 平尾知士、次世代シーケンサーを用いた SNP ジェノタイピング、林木育種情報、25:5、2017. 07.
7. 高田直樹・坂本真吾(産業技術総合研究所)・光田展隆(産業技術総合研究所)・谷口亨、The *Arabidopsis* NST3/SND1 promoter is active in secondary woody tissue in poplar. (シロイヌナズナの NST3/SND1 プロモーターはポプラの二次木部で活性を示す)、Journal of Wood Science、63:396-400、2017. 08.
8. 七里吉彦・三上雅史(横浜市大、農研機構)・大宮泰徳・二村典宏(元森林総研職員)・遠藤真咲(農研機構)・西口満・小長谷賢一・谷口亨、CRISPR/Cas9 システムによるスギ(*Cryptomeria japonica* D. Don)のゲノム編集、第35回日本植物細胞分子生物学会(さいたま)大会講演要旨集、p. 158、2017. 08.
9. 谷口亨、スギの不定胚培養系、形質転換系及び超低温保存方法の開発について、日本植物細胞分子生物学会(さいたま)大会講演要旨集、35:57、2017. 08.

10. 半智史(東京農工大学)・高橋大輔(Max-Planck Institute)・梅澤泰史(東京農工大学)・春日純(帯広畜産大学)・高田直樹・中田了五・上村松生(岩手大学)・船田良(東京農工大学)、シヨットガンプロテオミクスを用いたドロノキ放射柔細胞の放射方向におけるタンパク質変動の解析、日本植物学会第 81 回大会講演要旨集、PL-100、2017. 09.
11. HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎)・SAITO Kazuto(斎藤和人・電気通信大学)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)・MASUDA Hiroshi(増田宏・電気通信大学)、Above-Ground Phenotyping of the Japanese Cedar Individuals in a Progeny Test Site Using Terrestrial LiDAR(実生検定林におけるスギ個体の地上 LiDAR による地上部表現型計測)、SilviLaser 2017、99-100、2017. 10.
12. SAITO Kazuto(斎藤和人・電気通信大学)・MASUDA Hiroshi(増田宏・電気通信大学)・HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Shape Reconstruction of Trees in Massive-Scale Forests for Evaluation of Morphological Traits(大規模林分における形態形質評価のための樹木形状再構築)、SilviLaser 2017、167-168、2017. 10.
13. 山本雅信(東京農工大学)・諾恩達古拉(東京農工大学)・高田直樹・小山朗夫(農業生物資源研究所)・奥泉久人(農業生物資源研究所)・上杉幹子(東京農工大学)・梶田真也(東京農工大学)、リグニンの分子構造変化に伴う材色の変化、リグニン討論会第 62 回大会講演要旨集、109、2017. 10.
14. 三嶋賢太郎・能勢美峰・栗田学・坪村美代子・平尾知士・平岡裕一郎・花岡創・井城泰一・大平峰子・高島有哉・松下通也・高橋誠、スギの複数器官における遺伝子発現の統合解析、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、P20、2017. 11.
15. 福田有樹・大平峰子・平岡裕一郎・高橋誠・井城泰一・三浦真弘・栗田学・渡辺敦史(九州大院農)、スギ精英樹におけるさし木苗の根系形質評価、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、p22、2017. 11.
16. HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎)・TAMAKI Ichiro(玉木一郎・岐阜県立森林文化アカデミー)・WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学)、The origin of wild populations of Toxicodendron succedaneum on mainland Japan revealed by genetic variation in chloroplast and nuclear DNA(葉緑体及び核 DNA 多型による日本本土におけるハゼノキの起源解明)、Journal of Plant Research、DOI 10.1007/s10265-017-0992-7、2017. 11.
17. 石塚航(北海道立総合研究機構林業試験場)・田畑あずさ(北海道大学)・小野清美(北海道大学)・福田陽子・原登志彦(北海道大学)、グイマツ育種材料の系統評価 ―葉緑体全ゲノム情報を用いて、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、40、2017. 11.
18. 高田直樹・谷口亨、イネの遺伝子を使ってポプラの木質バイオマスの増産に成功、第 15 回環境研究シンポジウム、MAP-D7、2017. 11.
19. 上野山遼(鳥取大学)・七里吉彦・Gwafila Chiyapo(ボツワナ農務省)・甲斐政親(鳥取大学)・石本雄大(鳥取大学)・難波栄二(鳥取大学)・Charls Mazereku(ボツワナ農務省)・明石欣也(鳥取大学)、アフリカ・ボツワナ共和国における油糧植物ジャトロファの分子遺伝学的解析、第 9 回中国地域育種談話会講演会要旨集、p. 11、2017. 11.
20. FUKAUCHI Yuriko(深内百合子・鳥取大学)・SHIBATA Itaru(柴田至・鳥取大学)・KONO Fumika(河野史佳・鳥取大学)・UENOYAMA Ryo(上野山遼・鳥取大学)・KIDO Masafumi(木戸真史・鳥取大学)・NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)・AKASHI Kinya(明石欣也・鳥取大学)、Optimization of Protocol for Agrobacterium-Mediated Genetic Transformation of an Oil-Producing Plant Jatropha curcus L(バイオ燃料植物ジャトロファにおけるアグロバクテリウムを介した遺伝子組換えの最適化)、AFELiSA 2017(International Symposium on Agricultural, Food, Environmental and Life Sciences in Asia, 2017)、Abstracts of AFELiSA 2017、p.182、2017. 11.

21. 上野山遼(鳥取大学)・只野翔大(鳥取大学)・Gwafila Chiyapo(ボツワナ農務省)・七里吉彦・甲斐政親(鳥取大学)・足立香織(鳥取大学)・難波栄二(鳥取大学)・Charles Mazereku(ボツワナ農務省)・明石欣也(鳥取大学)、アフリカ・ボツワナにおけるバイオ燃料植物ジャトロファの多様性、平成 29 年度第 28 回大学間交流会プログラム・要旨集、p. 12、2017. 11.
22. 小長谷賢一・高田直樹・七里吉彦・谷口亨、遺伝子組換え雄性不稔スギの隔離ほ場栽培における特性評価、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、6:19、2017. 11.
23. 平尾知士・高島有哉・三嶋賢太郎・能勢美峰、乾燥ストレスに対するスギの遺伝子発現動態、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、p. 18、2017. 11.
24. ISHIZUKA Wataru(石塚航・北海道立総合研究機構林業試験場)・TABATA Azusa(田畑あずさ・北海道大学)・ONO Kiyomi(小野清美・北海道大学)・FUKUDA Youko(福田陽子)・HARA Toshihiko(原登志彦・北海道大学)、Draft chloroplast genome of *Larix gmelinii* var. *japonica*: insight into intraspecific divergence(グイマツ葉緑体のドラフトゲノム配列と種内変異への知見)、*Journal of Forest Research*, 22(6):393-399、2017. 12.
25. 諾恩達古拉*(東京農工大学)・辻幸子*(University of Wisconsin)・高田直樹*・坂本真吾(産業技術総合研究所)・中川明子(筑波大学)・谷口亨・ジョン ラルフ(University of Wisconsin)・光田展隆(産業技術総合研究所)・梶田真也(東京農工大学)(* co-first authors)、Change in lignin structure, but not in lignin content, in transgenic poplar overexpressing the rice master regulator of secondary cell wall biosynthesis. (イネの二次壁形成マスタースイッチを導入した組換えポプラでのリグニン構造の変化)、*Physiologia Plantarum*, doi:10.1111/ppl.12684、2017. 12.
26. MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)・HIRAKAWA Hideki(平川英樹・かずさ DNA 研究所)・IKI Taiichi(井城泰一)・HIRAO Tomonori(平尾知士)・TAMURA Akira(田村明)・KURITA Manabu(栗田学)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Full length isoform sequencing and profiling of expressed genes in cambial zone and needle leaf of Japanese larch (*Larix kaempferi*) (カラマツにおける完全長アイソフォーム配列の取得と形成層及び針葉の遺伝子発現解析)、*Plant and Animal GenomeXXVI Conference*、P0622、2018. 01.
27. 福田有樹・平尾知士・三嶋賢太郎・大平峰子・平岡裕一郎・高橋誠・渡辺敦史(九大院農)、Transcriptome dynamics of cuttings during adventitious root formation in *Cryptomeria japonica* D. Don(スギの不定根形成におけるトランスクリプトーム解析)、*Plant & Animal Genome XXVI*、発表番号 P0620、2018. 01.
28. 武津英太郎・坪村美代子・大平峰子・平岡裕一郎・栗田学、スギとヒノキにおける重イオン照射個体の生長評価と変異体リソース整備に向けた取り組み、仁科加速器研究センター応用研究開発室 品種改良ユーザー会報告書 2017、p75、2018. 01.
29. TANIGUCHI Toru(谷口亨)、Biotechnological Research in *Cryptomeria japonica*(スギのバイオテクノロジー)、*Biofuels: Greenhouse Gas Mitigation and Global Warming*(バイオ燃料：温室効果ガス削減と地球温暖化)、Springer, New Delh:357-374、2018. 01.
30. HIRAO Tomonori(平尾知士)・MATSUNAGA Koji(松永孝治)、Identification of QTL for pine wood nematode resistance in Japanese black pine (*Pinus thunbergii*) using Genotyping-By-Sequencing (GBS) (GBS を利用したクロマツにおけるマツノザイセンチュウ抵抗性 QTL の同定)、*Plant and Animal GenomeXXVI Conference*、発表番号 P0623、2018. 01.
31. AIZAWA Mineaki(逢沢峰昭・宇都宮大院農)・IWAIZUMI Masakazu(岩泉正和)・YOSHIMARU Hiroshi(吉丸博志)・GOTO Susumu(後藤晋・東京大院農生)、Identification of the parental species of a putative hybrid spruce *Picea* × *notha* using DNA markers with contrasting modes of inheritance(異なる遺伝様式の DNA マーカーを利用したハイブリッドトウヒ *Picea* × *notha* の親種の同定)、*Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*、69:11-19、2018. 02.

32. AKASHI Kinya(明石欣也・鳥取大学)・NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)、Recent Progress in the Genetic Engineering of Biofuel Crops(バイオ燃料作物の遺伝子組換えにおける最近の進展)、Biofuels: Greenhouse Gas Mitigation and Global Warming: 327-339、2018. 02.
33. 永野聡一郎・平尾知士・三嶋賢太郎・平岡裕一郎、林木の分子育種に向けたマルチプレックス SNP タイピングシステムの構築、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、pp. 207、2018. 03.
34. 三嶋賢太郎・坪村美代子・栗田学・平尾知士・能勢美峰・高島有哉、スギにおけるジベレリン処理による雄花着花量に關与する QTL の検出とジベレリン処理による雄花形成過程における遺伝子発現プロファイリング、育種学会第 133 回講演会要旨集、P049、2018. 03.
35. 福田有樹・平尾知士・三嶋賢太郎・大平峰子・平岡裕一郎・高橋誠・渡辺敦史(九大院農)、スギのさし木発根メカニズムの解明に向けた遺伝子発現解析、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、発表番号 P2-140、2018. 03.
36. 倉本哲嗣・栗田学・武津英太郎・倉原雄二・松永孝治・千吉良治・大塚次郎・佐藤譲治・竹田宣明、スギエリートツリーの植栽直後の樹高成長に対する遺伝的要因の影響、九州森林研究、71:ページ未定、2018. 03.
37. 高田直樹・栗野達也(京都大学)・朽名夏磨(東京大学)・谷口亨、Feedback regulation in secondary cell wall thickening in poplar(二次壁肥厚を制御する正の転写フィードバックループ)、日本植物生理学会第 59 回大会講演要旨集、1aI10、2018. 03.
38. 高田直樹・栗野達也(京都大学)・中田未友希(産業技術総合研究所)・坂本真吾(産業技術総合研究所)・光田展隆(産業技術総合研究所)・佐野雄三(北海道大学)・谷口亨、ゲノム編集技術により見出された新たな木部繊維の存在、日本木材学会第 68 回大会講演要旨集、A15-P-11、2018. 03.
39. 山本雅信(東京農工大学)・諾恩達古拉(東京農工大学)・高田直樹・富山浩和(農業・食品産業技術総合研究機構)・小山朗夫(農業生物資源研究所)・奥泉久人(農業・食品産業技術総合研究機構)・ジョン ラルフ(University of Wisconsin)・上杉幹子(東京農工大学)・梶田真也(東京農工大学)、リグニンの分子構造が変化した自然突然変異体・赤材桑に関する研究、日本木材学会第 68 回大会講演要旨集、L15-P-22、2018. 03.
40. ABE Kiyomi(阿部清美・農研機構)・OSHIMA Masao(大嶋雅夫・農研機構)・AKASAKA Maiko(赤坂舞子・農研機構)・KONAGAYA Ken-ichi(小長谷賢一)・NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)、OKUZAKI Ayako(奥崎文子・玉川大学)・TANIGUCHI Yojiro(谷口洋二郎・農研機構)・TANAKA Junichi(田中淳一・農研機構)・TABEI Yutaka(田部井豊・農研機構)、Development and characterization of transgenic dominant male sterile rice toward an outcross-based breeding system. (他殖に基づく育種システムに向けた形質転換による優性の雄性不稔イネの開発とその特徴)、Breeding Science、DOI:10. 1270/jsbbs. 17090、2018. 03.
41. 平尾知士、林木におけるゲノム育種に向けた次世代シーケンサーの活用、第 7 回森林遺伝育種シンポジウム、発表番号 3、2018. 03.

0 3 樹種、品種の選択と植栽試験

0 3 1 次代検定(育種効果を含む)

1. 武津英太郎・倉原雄二・松永孝治・栗田学・佐藤譲治・倉本哲嗣・佐藤省治・佐藤新一・竹田宣明、九州育種基本区におけるスギ第二世代精英樹候補木の選抜―九熊本第 141 号・九熊本第 142 号・九熊本第 143 号(スギ)および九熊本第 112 号(ヒノキ)における実行結果―、平成 29 年版林木育種センター年報、117-121、2017. 08.
2. 倉本哲嗣・栗田学・武津英太郎・松永孝治・倉原雄二・千吉良治・大塚次郎・佐藤譲治・竹田宣明、成長に優れたスギ系統の植栽試験地における初期成長パターンの比較、第 73 回九州森林学会大会研究発表要旨集、p. 40、2017. 10.
3. 松下通也・武津英太郎・花岡創・平岡裕一郎、マクロ・ミクロ環境に対するスギの樹高成長

の応答性における系統間差、日本森林学会大会、129:H8、2018. 03.

4. 三浦真弘、懇話会会員と連携した共同試験について、関西の林木育種、81:3-5、2018. 03.

032 試植検定林

1. 玉城聡・宮本尚子・那須仁弥・千葉信隆・落合幸仁(元森林総合研究所)、多雪地に植栽したコンテナ苗の雪圧による倒伏程度と回復能力の品種間の違い、日本森林学会大会学術講演集、129:274、2018. 03.

033 産地試験

1. 三浦真弘・牧本卓史(岡山県森林研)・中岡圭一(愛媛県林研セ)・木村光男(愛媛県林研セ)・上杉基(宮崎県林技セ)・武津英太郎・栗田学・倉本哲嗣・平岡裕一郎・高橋誠・星比呂志、少降水量地域におけるスギ精英樹と花粉症対策品種の植栽当年の成長、第129回日本森林学会大会講演要旨集、P2-144、2018. 03.

04 採種園、結実促進、その他有性繁殖

041 採種園関係

1. MATSUNAGA Koji(松永孝治)・HIRA Mineko(大平峰子)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)・FUKATSU Eitaro(武津英太郎)・KURITA Manabu(栗田学)・KURAMOTO Noritsugu(倉本哲嗣)・TOGASHI Katsumi(富樫一巳・東京大学)、The current state of Breeding for Japanese pine resistance against pine wilt disease and planned gain realization by seed orchard establishment(マツ材線虫病に対する抵抗性育種の現状と採種園の設計)、Proceedings of Seed Orchard Conference 2017、79、2017. 09.
2. 山野邊太郎、スギ・ヒノキ人工交配での不織布袋適用によるカメムシ防除簡略化の試行、関東森林研究、68(2):205-208、2017. 11.
3. 福田陽子・花岡創・矢野慶介・田村明、長日処理によるカラマツの着花促進効果、森林遺伝育種学会第6回大会講演要旨集、5、2017. 11.
4. 栗田学・坪村美代子・平岡裕一郎、人工交配の効率化に向けた雌花の開花フェノロジーの調査、森林遺伝育種学会第6回大会講演要旨集、p16、2017. 11.
5. 松永孝治・栗田学・岩泉正和・武津英太郎・松下通也・平尾知士・倉原雄二・倉本哲嗣・高橋誠、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツのクローナル採種園の最適設計に向けた種子生産シミュレーション、森林遺伝育種学会第6回大会講演要旨集、P21:32、2017. 11.
6. 今博計(北海道立総合研究機構林業試験場)・来田和人(北海道立総合研究機構林業試験場)・石塚航(北海道立総合研究機構林業試験場)・黒丸亮(北海道立総合研究機構林業試験場)・田村明・矢野慶介・中田了五、林業用優良種子の安定確保に向けた採種園整備指針の策定、公立林業試験研究機関研究成果選集 No. 15(平成29年度)(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所、90頁)、39-40、2018. 03.
7. 石塚航(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)・今博計(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)・黒沼幸樹・中田了五、第2世代精英樹等を用いた採種園設計、北海道松前町大沢トドマツ採種園造成の事例から、北海道林業試験場研究報告、55:23-41、2018. 03.

042 着花促進、種子生産性等

1. 宮本尚子・那須仁弥・織部雄一郎、クロマツおよびスギにおける溶液受粉法の効果の検討、東北森林科学会第22回大会講演要旨集、p. 12、2017. 08.
2. 田村明・松下通也・矢野慶介・今博計(北海道立総合研究機構林業試験場)・高橋誠、Estimation of external factors promoting cone buds induction in *Larix kaempferi*, *L. gmelinii*

- var japonica and Picea glehnii(カラマツ、グイマツ、アカエゾマツにおける雌花誘導促進に関する外的要因の推定)、Proceedings of IUFRO Seed Orchard Conference 2017、85-86、2017. 09.
3. MATSUSHITA Michinari(松下通也)・TAMURA Akira(田村明)・UBUKATA Masatoshi(生方正俊)、Variation among clones in the inter-annual reproductive fluctuation of Japanese larch (*Larix kaempferi*) in relation to climatic factors(カラマツにおける気象因子に関連した繁殖の年変動性)、IUFRO Seed Orchard Conference 2017、p80、2017. 09.
 4. 織部雄一朗・田中功二(青森県林業試験場)、BAP 処理によるクロマツ採種園の生産性向上、東北の林木育種、216:2、2017. 10.
 5. 松下通也・西川浩己(山梨県森林総研)・田村明、明るさ等の採種園環境に対するカラマツの着果性のクローン間変異、森林遺伝育種学会大会、6:11、2017. 11.
 6. 西川浩己(山梨県森林総研)・神戸陽一(山梨県森林総研)・小林正男(山梨県森林総研)・羽田直美(山梨県森林総研)・三浦充(山梨県森林総研)・渡辺真紀子(山梨県森林総研)・松下通也・田村明、環状剥皮したカラマツ採種木の着花促進について、森林遺伝育種学会大会、6:30、2017. 11.
 7. 大塚次郎・飯田啓達・飯野貴美子・成田有美子・増山真美・板鼻直榮・磯田圭哉・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・山田浩雄・生方正俊、コウヨウザンの球果と種子の形質および精選手法について、関東森林研究、68(2):129-132、2017. 11.
 8. 玉城聡、カラマツの着花促進技術の確立に向けた取り組み、東北の林木育種、217:2、2018. 02.
 9. 清水香代(長野県林業総合センター)・田村明・松下通也、カラマツ材質優良品種における着花特性及びスコアリングによる着花促進効果、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、p. 272、2018. 03.
 10. 松下通也・田村明、UAV を活用したカラマツ等の樹木個体の着果評価手法の検討、日本生態学会大会、65:I01-06、2018. 03.
 11. 矢野慶介、オノエヤナギおよびエゾノキヌヤナギにおける開花時期の種間・産地間差、第 129 回日本森林学会大会講演要旨集、P2-176、2018. 03.

05 採種園、その他無性繁殖

051 さし木、つぎ木、発根性等

1. 栗田学・倉本哲嗣・佐藤譲治・倉原雄二・大塚次郎・武津英太郎・松永孝治・渡辺敦史、挿し木苗生産期間の最適化に向けた発根に必要な期間の検討、第 73 回九州森林学会大会研究発表要旨集、p. 40、2017. 10.
2. 井城泰一・小川健一(岡山県農林水産総合センター生物科学研究所)・岩崎(葉田野)郁(岡山県農林水産総合センター生物科学研究所)・中川昌人(岡山県農林水産総合センター生物科学研究所)・田村明、グルタチオンを用いたカラマツさし木増殖技術の開発ー採種台木の育成ー、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、p16、2017. 11.
3. 井城泰一、グルタチオンを用いたカラマツコンテナ苗の養成、平成 29 年度岩手県林業技術センター、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所・林木育種センター東北育種場合同成果報告会、p5、2018. 02.
4. 小川健一(岡山県農林水産総合センター生物科学研究所)・岩崎(葉田野)郁(岡山県農林水産総合センター生物科学研究所)・中川昌人(岡山県農林水産総合センター生物科学研究所)・井城泰一・田村明・原真司(住友林業)・飛田博順、酸化型グルタチオンはニホンカラマツの春化に伴う種子休眠打破と実生成を促進する、第 59 回日本植物生理学会年会プログラム(簡易版)、p20、2aF12、2018. 03.
5. 吉村知也(九州大学大学院)・栗田学・田村美帆(九州大学大学院)・酒本大(九州大学)・大田

宗太郎(九州大学)・渡辺敦史(九州大学大学院)、スギにおける光質とさし木発根性との関係、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、p142、2018. 03.

052 組織培養

1. 小長谷賢一・七里吉彦・平尾知士・谷口亨、スギ雌性配偶体からの半数体カルスの作出、日本植物細胞分子生物学会(さいたま)大会講演要旨集、35:155、2017. 08.
2. 秋山佳貴(東京農工大学)・塚田健太郎(東京農工大学)・山岸祐介(北海道大学)・中田了五・半智史(東京農工大学)・船田良(東京農工大学)、トドマツ不定胚形成細胞(ESM)からの不定胚形成および植物体再生に関する研究、第 68 回日本木材学会大会 Web 要旨集、A15-P-34、2018. 03.

06 育苗、その他形質記録

061 育苗

1. 大平峰子、施設を活用したスギ苗木増殖技術、林業新技術 2017、19-20、2017. 07.
2. 大平峰子、播種時期の異なるスギコンテナ苗の成長推移の比較、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、10、2017. 11.
3. 福田陽子・田村明・花岡創・矢野慶介、長日処理によるトドマツコンテナ苗の成長促進効果、第 66 回北方森林学会、P-02、2017. 11.
4. 矢野慶介、バイオマス生産用ヤナギ植栽地にて繰り返し収穫した際のバイオマス生産の変化—2 回目の収穫では収量は変わるのか?—、第 66 回北方森林学会、P-21、2017. 11.
5. 福田陽子・花岡創・矢野慶介・田村明、ガラス温室での長日処理によるトドマツコンテナ苗の成長促進効果、北方森林研究、66:31-34、2018. 02.
6. 大平峰子、施肥量がヒノキ・クロマツのコンテナ苗の成長に及ぼす影響、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、271、2018. 03.

07 樹木園、緑化樹及び広葉樹の育種

072 広葉樹の育種

1. WANG Hui(名古屋大)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・TOMARU Nobuhiro(戸丸信弘・名古屋大)・NAKAGAWA Michiko(中川弥智子・名古屋大)、Sex change in the subdioecious shrub *Eurya japonica* (Pentaphylacaceae). (低木ヒサカキの性表現の評価)、Ecology and Evolution、7(7):2340-2345、2017. 04.
2. 谷口亨、薬用樹木キハダの優良系統選抜とクローン増殖を目指して、森林技術、904:20-21、2017. 07.
3. 谷口亨・河村文郎・大竹真弓(ツムラ)・河下美都里(ツムラ)・橋下和則(ツムラ)・新原修一(鹿児島県森林技術総合センター)・錦織正智(道総研)、漢方薬の原料「カギカズラ」の国内栽培を目指して—国産品の薬用成分、増やし方、育て方—、森林総合研究所 平成 29 年版 研究成果選集 2017、44-45、2017. 07.
4. 谷口亨・河村文郎・磯田圭哉・松下通也・高田直樹・濱本光・佐藤新一・佐藤省治、九州育種場に保存されているキハダ接ぎ木クローンの成長形質と薬用成分、森林総合研究所林木育種センター平成 29 年度版 2017 年報、137-140、2017. 08.
5. 谷口亨・河村文郎・高田直樹・磯田圭哉・松下通也・佐藤新一・濱本光・佐藤省治、キハダ 22 年生クローンのアルカロイド含有率と成長、関東森林研究、68(2):113-116、2017. 11.
6. 谷口亨、薬用系機能性樹木に関する研究の取り組みについて、森林遺伝育種、7(1):24-27、2018. 01.
7. 福田陽子、アオダモの持続的利用に向けた育種からの取り組み、北の森だより、19:4-5、2018. 03.

8. 谷口亨、薬用樹木「キハダ」について、林木育種情報、27:5、2018. 03.

08 森林保護技術と被害様式

081 気象害抵抗性育種（凍害、寒風害、雪害等）

1. 井城泰一・織部雄一郎・千葉里香・弓野奨、東北育種場における東北地方等マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業－平成 28 年度の実施結果－、平成 29 年版林木育種センター年報、108-110、2017. 08.
2. 井城泰一・松永孝治・平尾知士・岩泉正和・三浦真弘・磯田圭哉・山野邊太郎・渡辺敦史(九州大学)、マツノザイセンチュウ抵抗性に影響する気象要因の検討、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、S2-1、2018. 03.

082 病虫害抵抗性育種(昆虫害、病害等)

1. 大西昇(キリン基盤研)・安野紀子(キリン基盤研)・丸山毅・今野幸則(宮城県林業技術総合センター)・山野邊太郎・織部雄一郎、海岸林再生に向けた不定胚形成によるマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ家系の苗木増殖、森林遺伝育種、6:64-68、2017. 04.
2. 織部雄一郎、東北地方海岸林再生に向けたマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ種苗生産の飛躍的向上、JATAF ジャーナル、5(6):56、2017. 06.
3. 田村明・三浦真弘・松永孝治・高橋誠、優良品種の開発について－マツノザイセンチュウ抵抗性品種－、森林遺伝育種、6(3):93-97、2017. 07.
4. 織部雄一郎、東北地方太平洋沿岸の海岸防災林再生現場への抵抗性クロマツ苗木の供給、第 22 回東北森林科学大会講演要旨集、4、2017. 08.
5. 大西昇(キリン基盤研)・安野紀子(キリン基盤研)・丸山毅・今野幸則(宮城県林業技術総合センター)・山野邊太郎・織部雄一郎、植物組織培養技術によるクロマツ林の再生への取組(Trial toward recovering Japanese black pine forest through tissue culture techniques)、第 35 回日本植物細胞分子生物学会(さいたま)大会講演要旨集、14-15、2017. 08.
6. MENENDZ GUTIERREZ Maria(メネンデ グチレ マリア・ローリザン森林研究センター)・MATSUNAGA Koji(松永孝治)・TOGASHI Katsumi(富樫一巳・東京大学)、Relationship between pine wilt-tolerance rankings of Pinus thunbergii trees and the number of Bursaphelenchus xylophilus passing through branch sections(クロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性ランキングと切枝通過線虫数の関係)、Nematology、19(9):1083-1093、2017. 09.
7. 玉城雅範(沖縄県森林資源研究センター)・倉本哲嗣・松永孝治・栗田学・渡辺敦史(九州大学)、リュウキュウマツにおける時期別線虫接種試験について、第 73 回九州森林学会大会研究発表要旨集、p. 39、2017. 10.
8. 松永孝治・栗田学・武津英太郎・倉原雄二・倉本哲嗣、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツの開花と葉フェノロジーの相関、第 73 回九州森林学会大会、P39:404、2017. 10.
9. 山口莉未(九州大学)・松永孝治・渡辺敦史(九州大学)、異なる接種密度で接種したクロマツ樹体内におけるマツノザイセンチュウの頭数評価、第 73 回九州森林学会大会、P39:406、2017. 10.
10. 岩泉正和・河合慶恵・三浦真弘・松永孝治・小林玄(九大院生資)・渡辺敦史(九大院生資)、近畿・瀬戸内地域で新たに収集されたマツノザイセンチュウ系統の病原力評価、応用森林学会大会講演要旨集、68:21、2017. 11.
11. 杉本博之(山口県森技セ)・大池航史(山口県森技セ)・岩泉正和・磯田圭哉、マツ材線虫病被害進行地における抵抗性クロマツ品种植栽林の遺伝的構成、樹木医学研究、21:213-214、2017. 11.
12. 久保田正裕、平成 29 年度の開発品種について、関西育種場だより、85:3、2018. 03.

13. 玉城雅範(沖縄県森林資源研究センター)・倉本哲嗣・松永孝治・栗田学・渡辺敦史(九州大学)、リュウキュウマツにおける時期別線虫接種試験について、九州森林研究、71:ページ未定、2018. 03.
14. 松永孝治・平尾知士・田中憲蔵・市原優・渡辺敦史(九州大学)、環境要因がクロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性の発現に及ぼす影響、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、78、2018. 03.
15. 柳澤賢一(長野県林業総合センター)・清水香代(長野県林業総合センター)・松永孝治・杉本博之(山口県農林総合技術センター)・富樫一巳(東京大学)、マツ材線虫病被害先端地における線虫媒介昆虫種の 3 年間の空間的時期的変化、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、288、2018. 03.
16. 松永孝治、マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業ーより強い抵抗性品種の開発ー、林木育種情報、27:4、2018. 03.
17. 山口莉未(九州大学)・松永孝治・田村美帆(九州大学)・渡辺敦史(九州大学)、マツ材線虫病における病徴進展とマツノザイセンチュウの増殖過程との関係性、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、77、2018. 03.
18. 小林玄(九州大学)・松永孝治・田村美帆(九州大学)・手島康介(九州大学)・渡辺敦史(九州大学)、マツノザイセンチュウの温度特性とその適応、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、78、2018. 03.
19. 松永孝治・栗田学・武津英太郎・倉原雄二・倉本哲嗣、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツの開花と葉フェノロジーの相関、九州森林研究、71:ページ未定、2018. 03.

083 耐やせ地性等

1. 加藤一隆・宮下久哉、スギカミキリ抵抗性育種についてー森林総合研究所林木育種センターの取り組みー、林業と薬剤、220:1-5、2017. 06.

09 育種材料の特性

091 総合特性(成長、形態等)

1. 井城泰一、精英樹の特性を知る、森林遺伝育種、3:128、2017. 07.
2. 河合慶恵、地域差検定林に共通植栽された系統の成長パターンと形態的特性、関西育種場だより、83:2、2017. 07.
3. 松下通也・織邊俊爾・加藤智子・古本良、テリハボクを対象とした UAV による繁殖評価手法の検討、亜熱帯森林林業研究会、29:p18、2017. 08.
4. 那須仁弥・井城泰一・宮本尚子・山野邊太郎、東北育種基本区選抜のアカマツ精英樹の節間長等の材質に関する諸特性、東北森林学会第 22 回大会講演要旨集、5、2017. 08.
5. 加藤一隆・山野邊太郎・大平峰子、スギエリートツリーの野外植栽試験ーコンテナ苗と裸苗の初期成長の比較ー、第 7 回関東森林学会大会講演要旨集、22、2017. 10.
6. 加藤一隆・山野邊太郎・大平峰子、エリートツリーの性能評価試験ーコンテナ苗と裸苗における樹高および形状比の家系間の相関性について、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、6、2017. 11.
7. NANJO Tokihiko(楠城時彦)、テリハボク(*Calophyllum inophyllum*)傾斜木から発生する萌芽枝の特徴について、九州森林学会大会、73:45、2017. 11.
8. 花岡創、北海道育種基本区における気象条件と育種区との対応、第 66 回北方森林学会講演要旨集、P-06、2017. 11.
9. 倉本哲嗣・栗田学・武津英太郎・松永孝治・倉原雄二、スギのさし木クローン苗の成長と接ぎ木クローン苗及び実生苗の成長の関係、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、p20、2017. 11.

10. 石川達也(九大生資環)・作田耕太郎(九州大学)・武津英太郎・栗田学・倉本哲嗣、スギ幼齡木 5 クロウンの当年生シュートにおける成長期間中の水分特性値、第 73 回九州森林学会大会、502、2017. 11.
11. 花岡創、北海道育種基本区における気象条件と育種区との対応、北方森林研究、66:43-46、2018. 02.
12. NANJO Tokihiko(楠城時彦)、テリハボク(*Calophyllum inophyllum*)の傾斜木から発生する萌芽枝の特徴について、九州森林研究、71:ページ未定、2018. 03.
13. 松下通也・花岡創・楠城時彦・千吉良治・古本良・織邊俊爾・加藤智子・今野敏彦・尾坂尚紀(中勢森林組合)・板鼻直榮・加藤一隆、気候変動適応のための林木育種分野における国際技術協力ー早期の防風林造成に資するテリハボクの植栽試験ー、海外の森林と林業、101:20-24、2018. 03.
14. 武津英太郎・栗田学・平岡裕一郎・米康充(島根大学生物資源科学部)、UAV を用いた若齡スギ個体の樹高の大量計測に向けた最適撮影条件の検討、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、p275、2018. 03.

092 成長

1. 田村明・高橋誠、優良品種の開発についてー初期成長に優れた品種ー、森林遺伝育種、6(2):50-53、2017. 04.
2. 袴田哲司(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・近藤晃(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・池田潔彦(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・山本茂弘(静岡県立農林大学校)・平岡裕一郎・加藤一隆・三浦真弘、優良系統間で交配したスギの林地植栽後の初期成長、第 129 回日本森林学会大会講演要旨集、P2-158、2018. 03.

093 材質(心材色を含む)

1. SHIMIZU Yuri(清水友梨・名古屋大学大学院)・IKI Taiichi(井城泰一)・IMAI Takanori(今井貴規・名古屋大学大学院)、Radial distribution of monomeric, dimeric and trimeric norlignans and their polymerization in *Cryptomeria japonica* heartwood(スギ心材における一量体、二量体および三量体ノルリグナンポリマーの放射方向の分布)、Holzforschung、71(9):705-712、2017. 09.
2. MIYAMOTO Naoko(宮本尚子)・IIZUKA Kazuya(飯塚和也)・NASU Jin'ya(那須仁弥)・YAMADA Hiroo(山田浩雄)、Genetic effects on heartwood color variation in *Cryptomeria japonica*(スギ心材色変異における遺伝の影響)、Silvae Genetica、65(2):80-87、2017. 10.
3. 倉原雄二、横打撃共振法によるスギ心材含水率推定値の時系列変化、第 73 回九州森林学会大会研究発表要旨集、410、2017. 10.
4. 田邊純(千葉大学教育学部)・田村明・石栗太(宇都宮大学農学部)・飯塚和也(宇都宮大学農学部)・横田信三(宇都宮大学農学部)、アカエゾマツ精英樹家系のマイクロフィブリル傾角の変異と曲げ物性との関係、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、21、2017. 11.
5. IIZUKA Kazuya(飯塚和也・宇都宮大学)・TOYA Narumi(東谷菜留美・宇都宮大学)・OHSHIMA Jyunichi(大島潤一・宇都宮大学)・ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)・MIYAMOTO Naoko(宮本尚子)・AIZAWA Mineaki(逢沢峰昭・宇都宮大学)・OHKUBO Tatsuhiro(大久保達弘・宇都宮大学)・TAKENAKA Chisato(竹中千里・名古屋大学)・YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Relationship between ¹³⁷Cs concentration and potassium content in stem wood of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*)(スギの幹における ¹³⁷Cs 濃度とカリウム含量との関係)、Journal of Wood Science、DOI 10.1007/s10086-017-1673-9、2017. 11.
6. TANABE Jun(田邊純・千葉大学)・ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)・TAMURA Akira(田村明)・TAKASHIMA Yuya(高嶋有哉)・OHSHIMA Jyunichi(大島潤一・宇都宮大学)・IIZUKA

- Kazuya(飯塚和也・宇都宮大学)・YOKOTA Sinzo(横田信三・宇都宮大学)、Within-tree radial and among-family variations in wood density, microfibril angle, and mechanical properties in *Picea glehnii*. (アカエゾマツにおける容積密度、ミクロフィブリル傾角及び機械的特性に関する放射方向の変動及び家系間変異)、*Silva Fennica*, 52(2)、DOI.org/10.14214/sf.9914、2018. 02.
7. 高島有哉・三嶋賢太郎・田村明・松下通也・井城泰一・三浦真弘、カラマツ連年着花個体(FL系統)の木材性質、第 68 回日本木材学会大会研究発表要旨集、B15-P-15、2018. 03.
 8. 田邊純(千葉大学)・石栗太(宇都宮大学)・飯塚和也(宇都宮大学)・横田信三(宇都宮大学)・田村明、統計モデルを用いたアカエゾマツ精英樹家系のミクロフィブリル傾角の変異に関する解析、第 68 回日本木材学会大会京都大会、B15-P-16、2018. 03.
 9. 田村明・織田春紀(元森林総合研究所林木育種センター)・矢野慶介・山田浩雄・生方正俊、アカエゾマツにおける材質育種と簡易選抜について、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、p. 273、2018. 03.
 10. 田波健太(埼玉県寄居林業事務所森林研究室)・原口雅人(埼玉県寄居林業事務所森林研究室)・平岡裕一郎、第 2 世代スギ少花粉精英樹候補の初期成長と雄花生産、公立林業試験研究機関研究成果選集 No. 15(平成 29 年度)(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所、90 頁)、pp. 43-44、2018. 03.
 11. 宮下久哉・高島有哉・平岡裕一郎・井城泰一、スギ精英樹人工交配実生家系における密度及び応力波伝播速度に関する未成熟材から成熟材への移行期の比較、日本木材学会大会研究発表要旨集、68:B14-01-1115、2018. 03.
 12. 中田了五、心材形成研究の最近の進歩、木材学会誌、64(2):45-58、2018. 03.
 13. 井城泰一・高島有哉・平岡裕一郎・石栗太(宇都宮大学)、スギ精英樹人工交配家系を用いた心材色の遺伝性、第 68 回木材学会大会研究発表要旨集、B15-P-11、2018. 03.
 14. ノロブワンジル バンズラグチ(宇都宮大学)・石栗太(宇都宮大学)・大島潤一(宇都宮大学)・井城泰一・横田信三(宇都宮大学)、東北地方に植栽されたカラマツ 10 クロウンにおける木材性質、第 68 回木材学会大会研究発表要旨集、B15-P-14、2018. 03.
 15. 倉原雄二・武津英太郎・栗田学・倉本哲嗣、スギ心材含水率の成長錐コアおよび横打撃共振法による推定、日本木材学会大会研究発表要旨集、68:B15-P-10、2018. 03.
 16. 武津英太郎・高島有哉・井城泰一・藤本高明(鳥取大学農学部)、近赤外分光法によるスギのミクロフィブリル傾角の遺伝的評価に向けたモデルの検討、日本木材学会大会研究発表要旨集、68:B15-P-07、2018. 03.
 17. 沈昱東(信大院農)・村岡裕由(岐阜大流域圏)・斎藤琢(岐阜大流域圏)・深津英太郎・平野優(信大院農)・安江恒(信大山岳研)、高山に生育する散孔材樹種ブナ、ダケカンバの年輪内平均密度に影響する気候要素、日本木材学会大会研究発表要旨集、68:A14-03-1115、2018. 03.

094 抵抗性

1. 岩泉正和、第 2 世代抵抗性アカマツの開発、林木育種情報、25:2、2017. 07.
2. 山野邊太郎、野外でのマツノザイセンチュウ接種において接種後の降雨が影響するタイミング、第 7 回関東森林学会大会講演要旨集、19、2017. 10.
3. 高島有哉・平岡裕一郎・松下通也・山野邊太郎・大平峰子・三嶋賢太郎・坪村美代子・高橋誠・平尾知士・花岡創・栗田学・武津英太郎、土壌の乾燥に対するスギの生理的応答性のクロウン間変異、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集 p. 17、2017. 11.
4. 山野邊太郎、野外におけるマツノザイセンチュウ接種で接種後の降雨が影響するタイミング、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、9、2017. 11.
5. 宮下久哉・加藤一隆・井城泰一、接種年が異なるスギカミキリ人工接種試験における遺伝性の検討、関東森林研究、68(2):173-176、2017. 11.

6. 岩泉正和、日々精進、森林遺伝育種、6:182-183、2017. 11.
7. 岩泉正和、県との連携による第二世代抵抗性アカマツ品種の開発、林木育種事業 60 周年記念シンポジウムプログラム、9、2018. 02.
8. 山野邊太郎、野外でのマツノザイセンチュウ接種において接種後の降雨が影響するタイミング、関東森林研究、69(1):ページ未定、2018. 03.
9. 山野邊太郎、東北地方におけるマツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発とその利用戦略、第 129 回日本森林学会大会プログラム、93、2018. 03.
10. 宮下久哉・加藤一隆・平岡裕一郎・井城泰一、スギカミキリ抵抗性交配家系を用いた抵抗性に関する遺伝性の検討、日本森林学会大会学術講演集、129:P2-152、2018. 03.

095 その他

1. 加藤一隆、スギ雄花着花特性検査の高度化事業の開始、林木育種情報、8、2017. 07.
2. 坪村美代子、スギにおける雄花着花性の遺伝性と雄花形態形成に関する研究、森林遺伝子育種学会第 6 回大会講演要旨集、p3、2017. 11.
3. 花岡創・古家直行、トドマツの樹冠反射スペクトルを用いた生理学的特性のクローン間変動評価の可能性、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、P. 6、2017. 11.
4. 河合慶恵・岩泉正和・三浦真弘・、久保田正裕・五十嵐秀一(愛媛大院・連合農)・市栄智明(高知大農)、地域差検定林に共通植栽されたスギ精英樹系統の乾燥ストレス応答特性、応用森林学会大会研究発表要旨集、68:19、2017. 11.
5. 三浦真弘・岩泉正和・河合慶恵・久保田正裕、近畿中国四国地方におけるヒノキ第二世代の着花特性、応用森林学会大会講演要旨集、68:20、2017. 11.
6. 三浦真弘、ヒノキ第二世代精英樹候補木の着花性について、関西育種場だより、84:2、2017. 11.
7. 中田了五、生立木における辺材圧ポテンシャルの長期間連続高時間解像度測定、第 68 回日本木材学会大会 Web 要旨集、A14-03-1630、2018. 03.
8. 河合慶恵・笹島芳信・岩泉正和・三浦真弘・久保田正裕・五十嵐秀一(愛媛大院・連合農)・市栄智明(高知大農)、二つの灌水条件下におけるスギ精英樹の成長と光合成の系統間変異、日本森林学会大会講演集、129:274、2018. 03.
9. 河合慶恵・篠崎夕子・岩泉正和・三浦真弘・久保田正裕、地域差検定林に共通植栽されたスギ精英樹系統の環境応答特性、平成 29 年度森林・林業交流研究発表集録(近畿中国森林管理局)、154-158、2018. 03.
10. 三浦真弘・飯田啓達・久保田正裕、四国地域におけるヒノキ第二世代精英樹(エリートツリー)の着花特性について、平成 29 年度四国森林・林業研究発表集、87-90、2018. 03.

10 遺伝資源

101 収集、保存

1. 遠藤圭太・木村恵・山田浩雄・生方正俊・荒川圭太(北海道大農)、異なる乾燥耐性を示すブナ科樹木の種子の胚軸および子葉、第 62 回低温生物工学会セミナー及び年会講演集、G8、2017. 05.
2. 千吉良治・松下通也・楠城時彦・古本良・加藤智子・仲里長浩(和歌山県立有田中央高等学校総合学科)、フクギのさし穂の形状が発根率に与える影響、亜熱帯森林・林業研究会 講演要旨集、29:17、2017. 08.
3. NANJO Tokihiko(楠城時彦)・FURUMOTO Ryo(古本良)・KATO Tomoko(加藤智子)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・NAKAZATO Nagahiro(仲里長浩)・和歌山県立有田中央高等学校総合学科)・CHIGIRA Osamu(千吉良治)、フクギさし木の発根性に及ぼす性差の影響、平成 29 年度亜熱帯森林・林業研究会講演要旨集、29:16、2017. 08.
4. 川村浩平(北海道大農)、嘉見大助(農研機構)・田中大介(基生研)・遠藤圭太・大槻裕香子(北

- 海道大農)・鈴木伸吾(北海道大農)・、山岸祐介(北海道大農)・荒川圭太(北海道大農)、ガラス化法による形質転換ポプラの超低温保存の試み、日本植物学会第 81 回大会研究発表記録、3aE01、2017. 09.
5. 川村浩平(北海道大農)・嘉見大助(農研機構)・鈴木伸吾(北海道大農)・田中大介(基生研)、遠藤圭太・大槻裕香子(北海道大農)・山岸祐介(北海道大農)・荒川圭太(北海道大農)、ガラス化法による形質転換ポプラの超低温保存の確立、Cryopreservation conference 2017 講演集、P-08、2017. 11.
 6. 遠藤圭太・板鼻直榮・山田浩雄・生方正俊、絶滅危惧種オガサワラグワのガラス化保存、Cryopreservation conference 2017 講演集、0-17、2017. 11.
 7. 木村恵・古本良・遠藤圭太、シードバンクにおける野生種保存の現状と課題、第 6 回森林遺伝育種学会、14、2017. 11.
 8. 岩泉正和・三浦真弘・河合貴之・笹島芳信・磯田圭哉、固有樹種シコクシラベの石鎚山集団内における 7 年間の結実動態、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、6:8、2017. 11.
 9. 遠藤圭太・松下通也・木村恵・花岡創・栗田祐子・塙栄一・木下敏(林野庁)・安部波夫・山田浩雄・生方正俊、Cryopreservation of *Fagus crenata* seeds: estimation of optimum moisture content for maintenance of seed viability by Bayesian modeling(ブナ種子の超低温保存: ベイジアンモデルによる最適含水率の推定)、Canadian Journal of Forest Research、48(2):192-196、2018. 02.
 10. 川村浩平(北海道大農)・嘉見大助(農研機構)・鈴木伸吾(北海道大農)・田中大介(基生研)・、遠藤圭太・大槻裕香子(北海道大農)・藤川清三(北海道大農)・山岸祐介(北海道大農)・荒川圭太(北海道大農)、超低温保存後の交雑ポプラ茎頂の個体再生率向上への試み、農芸化学会 2018、3A29p03、2018. 03.
 11. 川村遼馬(日本大学)・井上みずき(日本大学)・木村恵、34 属 58 種の樹木種子の形質から種子の乾燥耐性は推定できるのか、日本生態学会第 65 回大会、P2-030、2018. 03.
 12. 千吉良治・松下通也・楠城時彦・古本良・加藤智子・仲里長浩(和歌山県立有田中央高等学校総合学科)、フクギのさし穂の形状が発根率に与える影響、亜熱帯森林・林業研究会 研究発表論文集、平成 29 年度:14-20、2018. 03.
 13. 岩泉正和、固有樹種シコクシラベの結実モニタリング調査、関西育種場だより、85:1-2、2018. 03.

102 分類、同定、評価

1. 山田浩雄・遠藤圭太・宮本尚子、電解質漏出法によるコウヨウザンの耐凍性評価、平成 29 年版林木育種センター年報業務レポート、130-131、2017. 08.
2. 磯田圭哉・那須仁弥・岩泉正和・木村恵、アカマツ広域産地試験の関東試験地における植栽 2 成長期目の成長特性、第 7 回関東森林学会講演要旨集、38、2017. 10.
3. 生方正俊・塙栄一・中島章文、ドロノキの成長における産地間差および個体間差、第 7 回関東森林学会大会講演要旨集、p20、2017. 10.
4. 近藤禎二(森林総研非常勤職員)・山田浩雄・磯田圭哉・大塚次郎・中島章文・生方正俊・清野達之(筑波大学)、静岡県におけるコウヨウザンの成長、第 7 回関東森林学会大会発表要旨集、40、2017. 10.
5. 磯田圭哉・山田浩雄・木村恵・生方正俊・矢野慶介・岩泉正和、ケヤキ林木遺伝資源保存林におけるモニタリング調査、森林遺伝育種学会第 6 回大会講演要旨集、23、2017. 11.
6. 稲永路子・高田克彦(秋田県立大学木材高度加工研究所)、石川県産ヒバ(クサアテ)1 個体の低温順化過程における遺伝子発現解析、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、6:11、2017. 11.
7. 生方正俊・塙栄一・中島章文、ドロノキの葉形質における産地間差および個体間差、第 6 回森林遺伝育種学会大会講演要旨集、p26、2017. 11.

8. 近藤禎二(森林総研非常勤職員)・山田浩雄・磯田圭哉・大塚次郎・飯田啓達・生方正俊、東京大学千葉演習林におけるコウヨウザンの成長、関東森林研究、68(2):133-136、2017. 11.
9. 近藤禎二(森林総研非常勤職員)・山田浩雄・磯田圭哉・大塚次郎・飯田啓達・生方正俊、東京大学千葉演習林におけるコウヨウザンの成長、関東森林研究、68(2):133-136、2017. 11.
10. 磯田圭哉・山田浩雄・木村恵・矢野慶介・岩泉正和・生方正俊、喰丸峠ケヤキ林木遺伝資源保存林(福島県昭和村)におけるモニタリング調査(10年目)の結果、平成29年度版林木育種センター年報、122-129、2017. 12.
11. 稲永路子・高田克彦(秋田県立大学木材高度加工研究所)、アスナロ属の低温順化過程における遺伝子発現パターンの産地間比較、第129回日本森林学会大会学術講演集、p. 270、2018. 03.
12. 生方正俊・田村明・高橋誠・来田和人(北海道立総合研究機構)・対馬俊之(北海道立総合研究機構)・今博計(北海道立総合研究機構)・田中功二(青森県産業技術センター)・蓬田英俊(岩手県林業技術センター)・中村博一(群馬県林業試験場)・清水香代(長野県林業総合センター)・西川浩己(山梨県森林総合研究所)・矢野慶介・井城泰一、カラマツ種子の成熟時期の植栽地間および年次間変異、第129回日本森林学会大会講演要旨集、P2-145、2018. 03.
13. 生方正俊・塙栄一・中島章文、標高によるカラマツ種子の成熟時期の違い、第65回日本生態学会大会講演要旨集、P3-047、2018. 03.
14. 木村恵・川村遼馬(日本大学)・井上みずき(日本大学)・齋藤智之、120年ぶりに開花したスズタケ種子の形態的・生理的特性、日本生態学会第65回大会、P3-062、2018. 03.
15. 酒井敦・大谷達也・米田令仁・内山憲太郎・木村恵・魚梁瀬「天然」スギ林の間伐後の成長、日本森林学会大会学術講演集、129:119、2018. 03.
16. 山田浩雄・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・大塚次郎・磯田圭哉・生方正俊、コウヨウザンの簡易収穫予想表の試作、日本森林学会大会学術講演集、129:P2-102、2018. 03.
17. 近藤禎二(森林総研非常勤職員)・山田浩雄・大塚次郎・山口秀太郎・磯田圭哉・生方正俊、コウヨウザン林分における幹折れ、日本森林学会大会学術講演集、129:F4、2018. 03.
18. 花岡創・松下通也・中西敦史・斎藤秀之(北海道大学)・福田陽子、種間雑種の形態形質は両親種と比較して中間的か?カバノキ属3種を用いた検証、第129回日本森林学会大会、S15-1、2018. 03.
19. 岩泉正和・大久保典久・飯田啓達・河合慶恵・三浦真弘・那須仁弥・磯田圭哉、アカマツ広域産地試験の岡山および高知における苗畑での実生の発芽特性、日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-037、2018. 03.
20. 岩泉正和・河合貴之・笹島芳信・河合慶恵・三浦真弘・那須仁弥・磯田圭哉、固有樹種シコクシラベ集団内の2豊作年における種子の遺伝的多様性、日本森林学会大会講演集、129:268、2018. 03.
21. 山田浩雄・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・大塚次郎・磯田圭哉・生方正俊、コウヨウザンの簡易収穫予想表の試作、日本森林学会大会学術講演集、129:P2-102、2018. 03.

103 情報管理

1. 山田浩雄・安部波夫、コウヨウザン、センダン、キハダ、ウルシ、イタヤカエデ、ウダイカンバの所在地データベースの作成、平成29年版林木育種センター年報業務レポート、132-136、2017. 08.
2. 山田浩雄、林木遺伝資源所在地データベースの作成について、林木育種情報、26:4、2018. 01.

11 天然林等の育種

111 天然林の育種

1. KIMURA Megumi(木村恵)・UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)・SAKAI Atsushi(酒井敦)・OTANI Tatsuya(大谷達也)・KAWAHARA Takayuki(河原孝行)・TSUMURA Yoshihiko(津村義彦)・筑波大

- 学)、Impact of selective logging in genetic diversity of *Cryptomeria japonica* in old natural forest, Kochi Japan. (高知県のスギ高齢における択伐が遺伝的多様性に及ぼす影響)、IUFRO 125th Anniversary Congress 2017、PS-153 2726、2017.09.
2. IWAIZUMI Masakazu(岩泉正和)・MIYATA Shousuke(宮田翔介・広島県農林水産局)・HIRAO Tomonori(平尾知士)・TAMURA MIHO(田村美帆・九大院生資)・WATANABE Atsusi(渡辺敦史・九大院生資)、Historical seed use and transfer affects geographic specificity in genetic diversity and structure of old planted *Pinus thunbergii* populations(歴史的種苗利用と移動がクロマツ有名松原植栽林の遺伝的多様性と構造に影響する)、Forest Ecology and Management、408:211-219、2018.01.
 3. 木村恵・内山憲太郎・岩崎隼(東京大学)・齊藤陽子(東京大学)・井出雄二(東京大学)・袴田哲司(静岡県)・酒井敦・大谷達也・岩泉正和・磯田圭哉、遺伝的多様性と遺伝構造から探るスギ高齢林の更新様式、第129回日本森林学会大会、P2-126、2018.03.
 4. 津村義彦(筑波大学)・木村恵・中尾勝洋・内山憲太郎・伊原徳子・Yafeng Wen(中南林業科技大学)・Tong Zaikang(浙江農林大学)・Han Wenjun(中南林業科技大学)、氷期が強く影響した日本と中国に分布するスギの遺伝的分化、第129回日本森林学会大会、F8、2018.03.

1 2 外国樹種の育種

1 2 1 外国樹種の育種

1. 磯田圭哉・大塚次郎・飯田啓達・成田有美子・増山真美・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・山田浩雄・生方正俊、東京大学千葉演習林内のコウヨウザン林分における自殖家系の検出、関東森林研究、68(2):145-148、2017.11.
2. 磯田圭哉・上野真義・大塚次郎・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・生方正俊、国内コウヨウザン林分の遺伝的組成の解明と由来の推定、第129回日本森林学会大会学術講演集、F5、2018.03.

1 2 2 海外の林木育種技術協力

1. HANAOKA So(花岡創)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・Stephen Omondi(KEFRI)、Guidelines for conservation of genetic resources of *Melia volkensii* and *Acacia tortillis* in the dryland of KENYA(ケニア乾燥地における *Melia volkensii* と *Acacia tortillis* の遺伝資源保全ガイドライン)、Sankeisha、34 ページ、2017.08.
2. 生方正俊、「ケニアの林木育種プロジェクト」新たなステージへ、林木育種情報 26、p5、2018.01.
3. 花岡創、ケニア共和国における *Melia volkensii* 育種の近況、野幌の丘から、188:5、2018.03.

1 3 会議報告

1. 七里吉彦、チリで開催された国際会議「IUFRO Tree Biotechnology 2017」について、森林遺伝育種、6(4):175-177、2017.10.
2. 松下通也・松永孝治・田村明、国際会議「IUFROSeedOrchardConference2017」について、森林遺伝育種、7(1):32-35、2018.01.
3. 松下通也・松永孝治・田村明、スウェーデンで開催された国際会議 IUFROSeedOrchard、林木育種情報、26:18、2018.01.
4. 七里吉彦、国際会議 IUFRO Tree Biotechnology 2017 に参加して、林木育種情報、26(1):6、2018.01.

1 4 プログラム開発

1 4 2 データベース作成

5. 那須仁弥、アカマツの品種選択ツール：オンデマンドシステムの開発、岩手の林業、724:6-7、2018. 03.

1 5 その他

1. AISO Haruna(相蘇春菜・宇都宮大学)・ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)・TOYOIZUMI Tatsuya(豊泉達也・宇都宮大学)・TAKASHIMA Yuya(高島有哉)・AIZAWA Mineaki(逢沢峰明・宇都宮大学)・YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Relationships between tree size and reaction wood formation in 23 Japanese angiosperms. (日本産広葉樹 23 種における樹体サイズとあて材形成の関係)、Journal of Wood Science、63:307-312、2017. 05.
2. 矢野慶介、Abies2016 の札幌開催に携わり、森林科学、80:54、2017. 06.
3. KUDO Kayo(工藤佳代・秋田木工研)・NABESHIMA Eri(鍋島絵里・愛媛大)・UTSUMI Yasuhiro(内海泰弘・九州大)・Shahanara Begum(Bangladesh Agricultural University)・ORIBE Yuichiro(織部雄一郎)・YAMAGISHI Yusuke(山岸祐介・北海道大)・NAKABA Satoshi(半智史・東京農工大)・Md Hasnat Rahman(東京農工大)・KURODA Katsushi(黒田克史)・YASUE Koh(安江恒・信州大)・TAKATA Katsuhiko(高田克彦・秋田木工研)・FUNADA Ryo(船田良・東京農工大)、Relationship between formation of earlywood vessels and growth of buds and shoots in a deciduous ring-porous hardwood, *Quercus serrata*(落葉環孔材広葉樹コナラの早材道管の形成と芽とシュートの成長との関係)、IUFRO 2017 Division 5 Conference、6-A、2017. 06.
4. 矢野慶介、フィンランドにおける林業および林木育種事業～北海道における現状との比較～、平成 28 年度北の国・森林づくり技術交流発表集、p194-200、2017. 07.
5. 那須仁弥、東北育種場におけるカラマツ特定母樹に対する取組み、林木育種情報、25:3、2017. 07.
6. 織部雄一郎、東日本大震災で壊滅した海岸防災林再生現場への抵抗性クロマツ苗木の安定供給に向けた技術開発と普及、第 57 回治山研究発表会、34、2017. 09.
7. KUDO Kayo(工藤佳世・秋田県立大学)・ORIBE Yuichiro(織部雄一郎)・BEGUM Shahanara(バングラデシュ農科大学)・YAMAGISHI Yusuke(山岸祐介・北海道大学)・NABESHIMA Eri(鍋嶋絵里・愛媛大学)・RAHMAN Md Hasnat(東京農工大学)・NAKABA Satoshi(半智史・東京農工大学)・TAKATA Katsuhiko(高田克彦・秋田県立大学)・FUNADA Ryo(船田良・東京農工大学)、The pattern of location of the first earlywood vessels in the current year's xylem in a ring-porous hardwood, *Quercus serrata*. (コナラ・環孔材広葉樹の当年生木部に最初に形成される道管の出現パターン)、Program Book Joint Conference the 9th PRWAK & IAWS Meeting The 9th International Symposium of IWoRS、73、2017. 09.
8. FUNADA Ryo(船田良・東京農工大学)・RAHMAN Md Hasnat(東京農工大学)・BEGUM Shahanara(バングラデシュ農科大学)・KUDO Kayo(工藤佳世・秋田県立大学)・YAMAGISHI Yusuke(山岸祐介・北海道大学)・NABESHIMA Eri(鍋嶋絵里・愛媛大学)・NUGROHO Widyanto Dwi(ガジヤマダ大学)・MARSOEM Sri Nugroho(ガジヤマダ大学)・ORIBE Yuichiro(織部雄一郎)・NAKABA Satoshi(半智史・東京農工大学)、Regulation of cambial activity in trees: the role of temperature and precipitation. (樹木における形成層活動の制御機構：温度と降水量の役割)、Program Book Joint Conference the 9th PRWAK & IAWS Meeting The 9th International Symposium of IWoRS、83-84、2017. 09.
9. ORIBE Yuichiro(織部雄一郎)・FUNADA Ryo(船田良・東京農工大学)、Locally heated dormant cambium can re-initiate cell production independently of new shoot growth in deciduous conifers (*Larix kaempferi*). (落葉針葉樹(カラマツ)では、休眠期に局部加温された形成層は、シュートの新たな伸長成長とは無関係に再活動できる)、Dendrochronologia、46:14-23、2017. 12.

10. 那須仁弥、東北におけるカラマツエリートツリー選抜と特定母樹の普及、東北森林管理局：平成 29 年度森林・技術交流発表要旨集、35、2018. 01.
11. BEGUM Shahanara(バングラデシュ農科大学)・KUDO Kayo(工藤佳世・秋田県立大学)・RAHMAN Md Hasnat(東京農工大学)・NAKABA Satoshi(半智史・東京農工大学)・YAMAGISHI Yusuke(山岸祐介・北海道大学)・NABESHIMA Eri(鍋嶋絵里・愛媛大学)・NUGROHO Widyanto Dwi(ガジャマダ大学)・ORIBE Yuichiro(織部雄一郎)・KITIN Peter(USDA・南洋理工大学)・JIN Hyun-O(慶熙大学校)・FUNADA Ryo(船田良・東京農工大学)、Climate change and the regulation of wood formation in trees by temperature(気候変動と樹木における温度による木部形成の制御)、Trees、32(1):3-15、2018. 02.
12. 倉本哲嗣、研究成果を学会で発表、九州育種場だより、36:4、2018. 02.
13. 松永孝治、Seed Orchard (採種園) Conference 2017 に参加しました。、九州育種場だより、36:5、2018. 02.
14. 永野聡一郎・野口裕司(農研機構)・平川英樹(かずさ DNA 研)・磯部祥子(かずさ DNA 研)、雄蕊形態異常を伴う栽培イチゴ核置換系統間のゲノム変異の検出、園芸学研究、17(別冊 1):127、2018. 03.
15. 野口裕司(農研機構)・片岡園(農研機構)・永野聡一郎、イチゴ雄蕊形態異常に対する稔性(形態)回復遺伝子の確認、園芸学研究、17(別冊 1):野 001、2018. 03.
16. 坪根正雄(福岡県農林総試)・和田卓也(福岡県農林総試)・磯部祥子(かずさ DNA 研)・永野聡一郎・森美幸(福岡県農林総試)・平田千春(福岡県農林総試)・永松志朗(福岡県農林総試)・下村克己(福岡県農林総試)・平島敬太(福岡県農林総試)、イチゴの多元交雑集団を用いた果実色に関するゲノムワイド関連解析、育種学研究、20(別冊 1):166、2018. 03.
17. 福田有樹、国際学会 Plant & Animal Genome XXVI に参加して、林木育種情報、27:7、2018. 03.
18. 齋藤和人(電気通信大学)・平岡裕一郎・松下通也・高橋誠・増田宏(電気通信大学)、大規模点群データを用いた樹木の枝葉モデリング手法、第 129 回日本森林学会大会講演要旨集、D29、2018. 03.
19. 西川優弥(岐阜大学大学院自然科学技術研究科)・花岡創・加藤正吾(岐阜大学応用生物科学部)、ヒノキ・ツブラジイ林における半寄生植物ツクバネの宿主選好性、第 129 回日本森林学会大会、P1-268、2018. 03.
20. 織部雄一郎・石田清(弘前大学)・白濱千紘(弘前大学)・鍋嶋絵里(愛媛大学)、小径成長錐で採取したサンプルの樹脂包埋法—形成層帯と木部分化帯を含む場合—、第 68 回日本木材学会大会研究発表要旨集、A16-03-1100、2018. 03.
21. 工藤佳世(秋田県立大学)・織部雄一郎・RAHMAN Md Hasnat(東京農工大学)・山岸祐介(北海道大学)・半智史(東京農工大学)・船田良(東京農工大学)・高田克彦(秋田県立大学)、休眠期コナラ苗木樹幹に対する局所的加温とオーキシン塗布の複合処理が木部形成に与える影響、第 68 回日本木材学会大会研究発表要旨集、A15-P-45、2018. 03.
22. 石田清(弘前大学)・杉本咲(弘前大学)・白濱千紘(弘前大学)・織部雄一郎・宮沢良行(九州大学)、雪山における落葉樹の開葉時期：可塑性と進化、気候変動に対する応答、第 129 回日本森林学会大会学術講演集、79、2018. 03.
23. 白濱千紘(弘前大学)。織部雄一郎。宮沢良行(九州大学)。石田清(弘前大学)、積雪がもたらすブナ・ミズナラの空間分布とその生成要因、日本生態学会第 65 回全国大会講演要旨、P2-038、2018. 03.